

中学校 第2学年 英語科 学習指導案

期 日 平成 24 年 10 月 26 日(金) 第 5 校時
 場 所 山鹿市立山鹿中学校 2 年 1 組教室
 指導者 教諭 田崎 英明
 ALT Huy Tran

1 単元名

「Program 6 A Work Experience Program」(SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂)

2 単元について

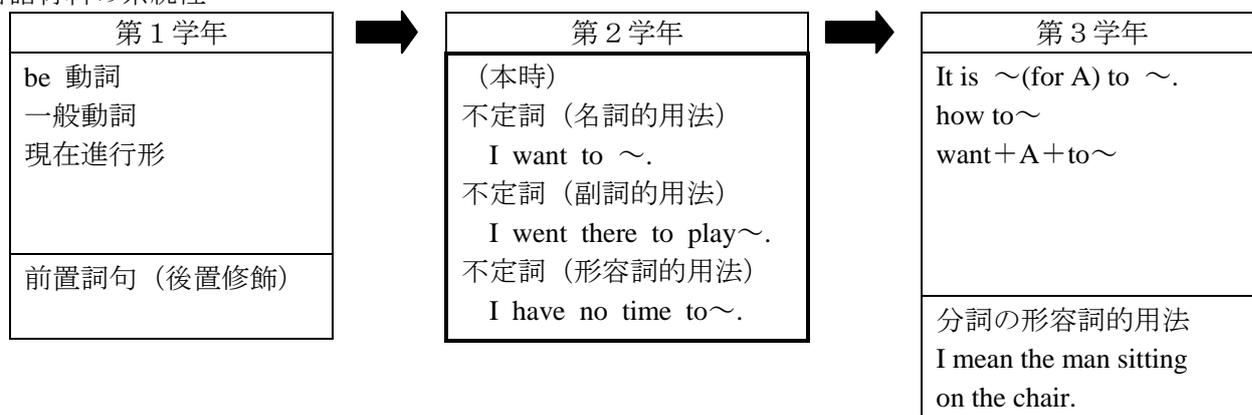
(1) 単元観

本単元は中学生の由紀、武史、桃子が職業体験を通して学んだことをウッド先生に話したり、クラスの中で将来の夢について発表したりする場面が取り上げられており、自分の将来について考えたり、職業観を深めたりするにはたいへん意義のある題材である。また、本校の生徒は9月に同じ職業体験を経験しており、まさに自分のこととして職業体験で学んだことや将来の夢について、書いたり話したりすることができるため、英語によるコミュニケーション能力を育み、英語学習への意欲を高めるのにふさわしい題材である。

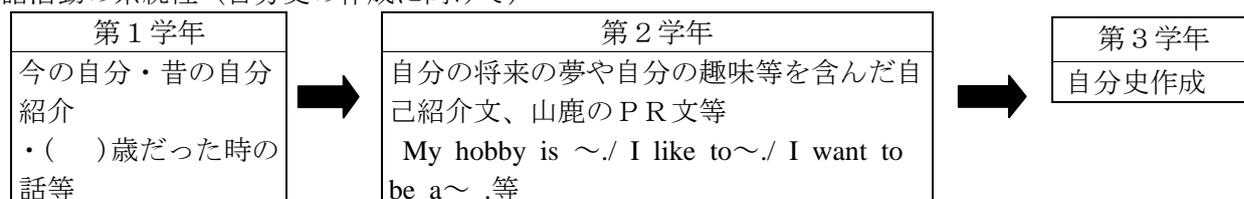
本単元の新出言語材料は、to 不定詞の3用法である。どの用法も様々な表現活動に活用できるものであり、これらを使ってさらに表現の幅を広げ豊かな対話を展開することができる。不定詞は to+動詞の原形の不定詞句が名詞的用法「～すること」、副詞的用法「～するために」、形容詞的用法「～するための」と文の中で意味的に変化する。従って、会話しやすい話題を用いて不定詞の意味に気付かせながら理解させることで自然と身に付いていく流れを作っていきたい。さらに、自分のしたいことやその目的等を英語で表現する力だけではなく、それらを積極的に相手に伝えようとする態度を身に付けることが期待できる単元でもある。この単元での言語材料の使用場面は、「b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面」であり、「言語の働き」としては、「c 情報を伝える」のうち、「説明する」「報告する」「発表する」などの言語活動に当たる。

(2) 系統観

○言語材料の系統性



○言語活動の系統性 (自分史の作成に向けて)



(3) 生徒観

○本学級の生徒は授業に対する取組が真面目で、提出物はきちんと揃い、忘れ物も少ない。家庭学習の

習慣が定着していない生徒が数人見られるが、授業中は意欲的に発言したり学習課題に取り組んだりするなどたいへん前向きである。また、自分の思いを発表することに躊躇しがちな生徒もいるが、お互いに協力しながら言語活動に取り組む積極的な姿勢が見られる。

- 英語学習に対する意識調査の結果 調査日：平成24年8月30日 調査対象：36人 単位：%
ア、あてはまる イ、まあまああてはまる ウ、あまりあてはまらない エ、あてはまらない

アンケート項目 (一部抜粋)	ア	イ	ウ	エ
1 英語は好きな教科である。	29.4	38.9	28.9	2.8
2 英語を「話すこと」は好きである。	28.3	38.9	28.9	3.9
3 英語を「書くこと」は好きである。	14.2	28.6	42.9	14.3
4 外国の人と英語で話せるようになりたい。	44.4	22.2	25.0	8.4
5 外国の人へのeメールや手紙が書けるようになりたい。	30.6	22.2	38.9	8.3

8月に実施した意識調査によると、約7割の生徒が英語学習に対して「好き」、または「まあまあ好き」と回答している。また、「英語で話すこと」に関しては約67%の生徒が「好き」、または「まあまあ好き」と回答しているが、「書くこと」に関しては同じ項目で約43%となっている。日頃の帯学習などでの対話練習を通して、「話すこと」に前向きな生徒が多くなっているが、「書くこと」に関しての言語活動が十分ではないと考えられる。また、「英語で話せるようになりたい」と思う生徒が約67%、「英語で書けるようになりたい」と思う生徒が約53%であることを合わせて考えると、「話すこと」や「書くこと」に関する運用能力を身に付けたいと考える生徒は多いものの、特に「書くこと」に関しては、自信が持てない生徒の姿が見える。

- レディネステストの結果 調査日：平成24年9月6日 調査対象：37人

1 正しい形におしなさい。 ()内の数字は正答数	<ul style="list-style-type: none"> • He is (study) English. (23) 誤答例 studing, studiedなど • She (go) to Tokyo last week. (21) 誤答例 goed, goes, wantなど
2 並べ替えなさい。	• like / what / you / do / sports/ ?(23) 誤答例 What do you like sports?
3 日本語を英語にしましょう。	<ul style="list-style-type: none"> • 暇な時にたいい何をしますか。(16) 誤答例 usuallyの綴りミスが7名 • もし明日雨なら家で本を読みます。(17) willがない文章4名

文字に対する苦手意識が強い生徒も見られ、レディネステストでも綴りミスや空欄の部分がかかり見られた。新出事項だけでなく既習事項も繰り返し活用させる言語活動を設定するとともに、授業に集中させる雰囲気作りに力を入れたい。

(4) 指導観

- 本学年を指導するに当たっては、昨年度から「基礎・基本の徹底」、「英語補充学習」及び「英語で伝え合う力の育成」の三つを重点目標に置いてきた。そのため、50分のうちの最初の10分を基礎・基本の定着の時間と位置付けて、基本文の英作文テストを繰り返し行ったり、既習事項の言語材料を使った自己紹介や友達紹介を書く活動を、学期に1度取り入れたりしている。また、既習事項が定着していない生徒については、昼休みに個別指導を行ってきたため、少しずつではあるが確実に力を付けている。さらに、毎日の帯学習で対話を続けることを主眼に置いた言語活動を継続的に実施している。思いを伝え合うときは、相手の発話内容に沿った質問や感想だけでなく、ジェスチャーやアイコンタクトが大切であることを意識して指導している。本単元でも新出事項だけの練習にならないように復習を十分に行いながら、思いを伝え合う言語活動に取り組ませたい。
- 新出の不定詞を定着させるために、新出事項を盛り込んだ自己表現等をペアワークなどで繰り返し行う。さらに、一文単位ではなく、つながりを意識して複数の文章を書く言語活動を、単元を通して設定する。
- 確実に身につけさせたい内容やじっくり考えさせたい内容は、英語学習時間の固定班である英語学習班を利用してお互いに意見を出させたり、確認させたりしながら授業を進めたい。
- 学習目標に応じて個別指導・グループ指導などの学習形態を工夫し、また新出文構造の導入時や英文作りの場面等では個別支援を十分に行い、生徒の理解を促しながら学習内容の定着を図りたい。

Aプロジェクト 思考力、判断力、表現力等の育成の観点から

生徒自身の生活や体験に関連した言語使用場面を設定し、新出の文法事項や語彙を使った一文単位の発話ではなく、読み手や聞き手を意識した、一貫性のある情報を発信する言語活動に取り組む。さらに、相手の発話に即して質問したり、それに対する自分の意見を述べてプラスワンの情報を提供したりするなど、既習の言語材料を繰り返し用いながら、対話を展開する学習活動を通して、思考をさらに深める授業を展開する。

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

単元の目標	○本文の内容を理解することができる。 ○不定詞の文構造・意味・用法を理解することができる。 ○不定詞や既習言語材料を活用しながら、まとまりのある文章を書き、発表することができる。 ○インタビューの対話を聞いて、内容を理解することができる。 ○メールの文章表現を理解し、自分でもメールを書くことができる。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	①不定詞を用いて、自分やクラスメートの思いや考え等について積極的に書いたり対話したりしている。
外国語表現の能力	①不定詞を適切に使って書いたり話したりすることができる。 ②メールの文章表現を適切に使って、メールを書くことができる。
外国語理解の能力	①不定詞を使った本文の内容を正しく読み取ることができる。 ②ALTへのインタビューの内容を聞き、正しく理解することができる。
言語や文化についての知識・理解	①不定詞の文構造・意味・用法を理解することができる。 ②インタビューやメールでよく使用される語彙、文の意味及び構造を理解することができる。

4 指導・評価の計画（8時間取扱い 本時3／8）

次時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※プロジェクトの観点から	評価基準（評価方法）
1	○不定詞（名詞的用法）の文構造・意味・用法を理解し、これらを使って、自分の夢について表現したり、友人の夢を他の友人に紹介したりする。	※つながりを意識して適切なつなぎ言葉を使ったり、理由を付け加えたりして、まとまった文章を書き発表させる。	表現の能力① （ワークシート） クラスメートの夢について3文程度のまとまった文章を書き発表することができる。 関心・意欲・態度① （観察） クラスメートに意欲的にインタビューしたり、まとめた文章を発表したりしている。
	○Program 6-1 の本文の内容を理解する。	本文の内容を理解するとともに本文の単語を置き換えて自己表現につなげるようにする。	理解の能力① （ワークシート） 本文の内容について正しく読み取り、要点を説明することができる。
2	○不定詞（副詞的用法）を使って自分や友人の行動の目的や理由を書いたり表現したりする。	※相手の発話に沿って対話を進めながら情報を集め、つながりを意識して適切なつなぎ言葉を使ったり、理由を付け加えたりして、まとまった文章を書かせる。	表現の能力① （ワークシート・観察） 不定詞を用いて、自分やクラスメートの修学旅行における活動内容について3文程度のまとまった文章を書き発表することができる。

	4	○Program 6-2の本文の内容を理解する。	本文の内容を理解するとともに本文の単語を置き換えて自己表現につなげるようにする。	理解の能力① （ワークシート） 本文の内容について正しく読み取り、本文についての質問に答えることができる。
3	5	○不定詞（名詞的用法）を使って自分の経験や将来の夢などを表現する。	形容詞的用法の例を数多く準備し、口頭練習を繰り返すことで定着を図る。 ※つながりを意識して適切なつなぎ言葉を使ったり、理由を付け加えたりして、まとまった文章を書き発表させる。	表現の能力① （ワークシート・観察） 自分の経験や将来の夢などを3文程度のまとまった文章で書くことができる。
	6	○Program 6-3 の本文の内容を理解する。	本文の内容を理解するとともに本文の単語を置き換えて自己表現につなげるようにする。	理解の能力① （ワークシート） 本文の内容について正しく読み取り、本文についての質問に答えることができる。
4	7	○新出言語材料を含む少し長いまとまりのある英文を聴き取る。	インタビューでよく使用される表現とインタビューでのやりとりの仕方を学ばせる。	理解の能力② （ワークシート） インタビューでの質問と応答の内容を大まかにつかむことができる。 知識・理解② （ワークシート） インタビューでよく使用される単語や文の意味や構造を理解することができる。
	8	○メールの書き方を理解し、自己紹介やホームステイ先でしたいことなどを書く。	聞きたいことや自分の思いが読み手に伝わるように、文の構成に注意させる。 ※読み手を意識したわかりやすい文章にするために、つなぎ言葉などを適切に使ってまとまりのある文章を書く。	表現の能力② （ワークシート） 既習言語材料やメールの文章表現を適切に使って、ホームステイ先に自分の気持ちが伝わるようなメールを書くことができる。 知識・理解② （ワークシート） メールでよく使用される単語や文の意味や構造を理解することができる。

5 本時の学習

(1) 目標

自分やクラスメートの修学旅行における活動内容についての文章を、その目的等を交えながら内容的にまとまりのある文章を書き、発表することができる。

(2) 評価基準

「外国語表現の能力②」（ワークシート・観察）

(B基準) 不定詞を用いて自分やクラスメートの修学旅行における活動内容について3文程度のまとまった文章を書き発表することができる。

(A基準) 不定詞を効果的に用いて、自分やクラスメートにおける修学旅行の活動内容について4文程度のまとまった文章を書き発表することができる。

